厳寒期の乾燥・低温等に対する果樹の管理について

平成２９年１２月２０日
農　業　技　術　課

１　はじめに

１１月上旬以降、降水量が少なく、平年の３割程度と乾燥傾向にあります。また、冷え込みが強く平均気温も平年より低く経過しています（表１）。

今後も低温や乾燥が見込まれます。このため、農作物の管理に留意の上、以下の乾燥・低温対策を講じてください。

表１　平均気温と降水量の推移（甲府）

	H29降水量 mm	平年降水量 mm	平年差 %
１１月	18.5	54.9	33.7
１２月 (12/18迄)	0	21.9	0.0

	H29平均気温℃	平年平均気温℃	平年差 ℃
１１月	9.8	10.4	-0.6
１２月 (12/18迄)	4.8	5	-0.2

関東甲信地方の向こう１か月の気象の見通し（平成２９年１２月１４日気象庁発表）
（１２月１６日～１月１５日）

【予報のポイント】

・期間のはじめは、寒気の影響で気温の低い状態が続く見込みです。向こう１か月の気温は平年並みか低いでしょう。

・高気圧に覆われやすい時期であるため、向こう１か月の降水量は平年並みか少なく、日照時間は平年並みか多いでしょう。

２　技術対策

＜果樹の乾燥対策＞

○乾燥している園では、土壌の凍結層ができる前にかん水を行う。なお、かん水は昼間の暖かい時間に行う。また、かん水した水がほ場外へ流失しないよう注意する（路面凍結による交通事故防止）。

（１）ブドウ

・主幹から主枝分岐部へのワラ巻きなどの防寒対策や樹の周囲２mへの敷きワラを行い、土壌乾燥を防止する。特に、早期落葉した樹、若木や欧州系品種では徹底する。

・結果母枝の登熟不良樹や欧州系品種では、厳寒期を過ぎてから剪定を行う。ただし、雪害対策のため、年内中に荒切り剪定を行う。

・太枝や側枝を剪除する場合は、結果母枝の登熟具合を確認してから行う。

・結果母枝の登熟不良樹の剪定は、できるだけ枝数を多くおき、芽数の確保を図る。

・枯込み防止のため、大きな切り口には必ずゆ合剤を塗布する。

（２）モ　モ、スモモ

・若木や秋植えした苗木では、敷ワラなどにより乾燥防止対策を徹底する。

・枯死症対策として、冬季の強剪定を避ける。特に、若木の太枝剪除は樹液流動後に行う。

・早期落葉などにより枝の充実が悪い園では、厳寒期を過ぎてから剪定を行う。
・枯込み防止のため、大きな切り口には必ずゆ合剤を塗布する。
・枝枯れ防止のため、休眠期防除の年内散布は控える。

（３）カキ・リンゴ
・枝の充実や花芽の状態を確認し、樹勢が弱く枯れ込みが多い樹は、葉芽の動きを確認してから剪定を行う。

＜果樹の低温対策＞
（１）施設栽培
・加温ハウスで、外の気温が－１０℃を下回る場合、備え付けの暖房機に加え、石油ストーブなどを持ち込み、ハウス内の温度低下を防ぐ。
・ハウス内の夜温低下を防止するため、日中の気温の高い時間に散水をしておく。
・夕方以降、急速な気温低下が予想される場合は、ハウスは午後早めに密閉して、ハウス内に余熱を確保する。
・無加温ハウスでは、カーテンを閉めて保温に努めるとともに、簡易ストーブ等を使って加温する。また、降雪時の補助暖房装置を確保しておく。
・モモでは、低温遭遇積算時間が１，０００時間、オウトウ、ナシでは１，２００時間を経過してから加温する。